

井上綾乃ゼミ通信②

令和4年8月29日 保育センター発行

7/11(月)に、多機能型事業所シャインキッズ代表の井上綾乃先生による発達支援についての保育ゼミ第2回目が行われました。子どもの気持ちを体験し理解しながら、どう支援したらよいか？を学べる研修でした。

前回のおさらい
～この行動、鈍感さん？敏感さん？～

おもちゃを片付けるとき、物の扱いが荒い
→固有受容覚が鈍感。重さを感じにくい。

いつも姿勢が悪い
→前庭感覚が鈍感。体の軸（バランス）がわからない。
→固有受容覚が鈍感。姿勢を保持できない。

いつも同じ洋服を着たがる
→触覚が敏感。タグや縫い目に配慮をすると良い。

歯磨きを極端に嫌がる
→触覚が敏感。歯ブラシが嫌なら、他の感触の物（モアブラシ等）で受け入れられる物を探すと良い。

子どもを理解するには、見えない部分を考える！

～なぜ伝わらない？なぜ行動に移せない？～

ワーキングメモリ

・必要な情報を一時的に脳内に保持し、必要な物だけを取り出し使用する脳機能

・ワーキングメモリの大きさは広がりにくい。



ワーキングメモリの少ない子は…

- ・指示が覚えられない
- ・会話が成り立ちにくい
- ・行動の切替えにつまずく など

明日は〇〇公園に行くから、9時に来てね。お弁当と水筒を持ってきてね。

そんなにたくさん言われたらわからない…

「いつ」「どこで」「何時」「何を」
たくさん情報の整理が必要！



聞く力

意味レベル

相手が伝えたい事を話の内容から判断する
ex:「雲」か「蜘蛛」か。

認知レベル

必要な音を選択して聞き取る。
ex:3人同時に単語を発声しても、一人の人に注目して聞くと聞き取れる。

知覚レベル

音源に気が付く。
「聞く力」と「見る力」は繋がっている。(カクテルパーティー効果)

これを踏まえて

自分のワーキングメモリ、どれくらい？体験しました！

数字の逆唱 *定形発達の5歳児は3くらい
「1,6,3,9,2」→「2,9,3,6,1」

リピートしりとり *定形発達の5歳児は2くらい
…→「いか、かき、きのこ」→「かき、きのこ、こま」→「きのこ、こま、マイク」→…

記憶するって難しい事なのですね。この体験をしたことで、子どもの気持ちも知ることが出来ました。

どう支援する？社会モデルで考えよう！

～グループワークで出た意見～

ワーキングメモリの少ない子には…

- ・指示はひとつずつにする。
- ・身支度するときの手順や場所を写真や絵カードを使い視覚で補う。
- ・支度の動線は、出来るだけ1か所で出来るように環境を工夫する。



・支度は子どもにとって面白くない事なので、面白い事にしてしましましょう。

ex:コップを入れる→シール貼る→タオル掛ける→シール貼る…とスタンプラリー風にする等。

・物での支援は子どもがいつも同じように頼る事ができ、変わることがないので安心します。物的環境を整え、子どもが困ったときに自力で解決するための支援方法を考えましょう。

・スケジュールや手順書は子どもを動かす道具ではなく、子どもの自立を助けるものです。

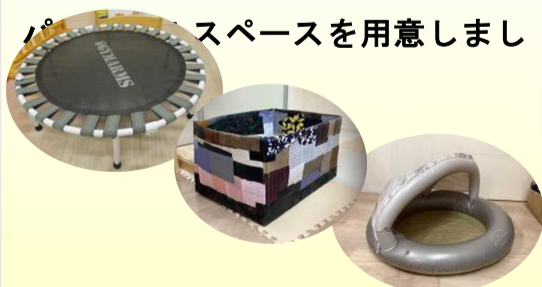
前回の研修後の各園の取り

感覚が鈍感な子どもに対して固いボールを入れたクッションを椅子につけたら、前より座っていられるようになったと思います。



落ち着かない場合、感覚を満たせるようトランポリンを用意したり、狭い

スペースを用意しました



第2ひだまりの保育園

感覚の刺激が欲しい子の椅子に工夫をしました。(座面に滑り止めマットを敷き、背中にあたる場所にでっぱりを付けた)

部屋の隅にパーソナルスペースを作りました。(視覚がシャットアウトできるよう1つ部屋の隅に付けた)



みなみ保育園

他にも、「会議、園内研修でゼミの内容を伝え、職員間で共有した」という方も多数いらっしゃいました。参加した皆さんの活用方を知るのもまた勉強になりますね！それでは、次回9月30日(金)も発達支援について、一緒に学びましょう！

研修担当:保育センター
保育士 市田明絵